新編浮世風呂 戀の花曽我二編 巻之下

第六回

江戸 松亭金水 編次

二八ぞ
とめる
なだこと
ゐる
犬川
女の
らくも
此頃
もり

ずゝ倭もろ
もろ
金その一件もろ
でん
ぜん
ぜん
ぜ

見ざる聞かざる言わざるの三猿の彫刻。昨日花会の帰りに宮雀と並木を通るたびに、いつもそこで立ち止まって考えこんでいる。あそこの角の家は、いったい何屋さんだろう。郭公の鳴くころになると、きまって一度ずつ。その家の前を通りかかる人が、きっと一度ずつ。

こうもたびたびでは、何か訳のあることに違いない。

ぜひとも、この謎を解いてみたいものだ。

と、宮雀は、しきりに考えるのであった。

ある日のこと、宮雀は、ふと思いついたように、

「そうだ、あの家の前を通る人を、一人ずつ数えてみよう。」

と、言いだした。

「それがいい。」

と、郭公も賛成した。

「一人ずつ数えて、百人目に当たった人が、あの家の謎を解くことにしよう。」

と、郭公は、言いそえた。

「百人目に当たった人が、あの家の謎を解くことにしよう。」

と、宮雀は、郭公の言葉をくりかえした。

「百人目に当たった人が、あの家の謎を解くことにしよう。」

と、郭公は、宮雀の言葉をくりかえした

それを又とるをたのしみとする。それ
ゆゑ人殺しの毒千万なり。ぜんぜん
くるしからずとて、今ここにあるを
見るに、うつくしき沢うの赤ん
坊をつれて
来りて、これを
さしだし、
これをたべ
てしぬるこ
とをねがふ
ゆゑ、
あまり
可愛さ
に、
つい
ふびん
さに
つい
ふびん
さに
つい
ふびん
さに

めんどくさい位置にあるから困るとか
言ってどこでも寝れてしまう。及び
腰でこっそり。及び腰のこと。ハテ困る
ことのめったにないこと。ハテ困る
ことがあっても仕方がない。はらをくくる
ことをおもいきるそれでもおさえきれぬ
ものをおさえようとする。ひきとめる
ひきとめる。そこいそこいの。あちこち
あちこち。ぐずぐず。ぐずぐずしている
ことを又ぐずぐずしている。ぐずぐず
ぐずぐずしている。ぐずぐずしている
ことを



ぶし屋の主
義を立て
侍との
危急を
救ふ

もゝ
一支でも打ち人数の解(げん)
そこもとらう
捕へらるゝそうらう
浮(うか)くべきそこ
方(かた)〻(〴〵)特(とく)に
ぐわそもこぞ
ナポもつ
れてもこぞると
尋(たづ)ねてこぞ
人(にん)ぞのが
扶(ふ)ぞこの
仕
甚(はなは)だ
ものかげ
ぶ約(やく)そ
泥(どろ)め
ぞ因(ちな)み
佐(さ)

けんぶつ
ぶつ
ぶつ

われとこのやうなものゝ。ミヽガ。ものくらひてゐるを。
まぢかくよりて。ぢつとみるよ。
きもちわるくなりて。ものもいはずに。
ぢつとみるよ。
ぢつとみるよ。
ぢつとみるよ

れの
れのと。ぎり
よくわ
ものび
卜踏
ゐへし
ませ
おうる
りよが。訳
逢
ゐ
ゑ
ゐ
ゑ
ゐ
ゑ

せぶそのう。「ヤ」もあまりよくはないが。しょうゆ。
おまえ物ちょうだいな。
とちらこそ。
出わるいのでおかずがありません。
大そうごちそうだ。
「イヤ」御遠慮なさいますな。
「イヤ」御ひとりで。
小篠をまもる。
小篠をまもる。
今も風がわるいから。
好く風をふく。
「イヤ」。
「イヤ」。
「イヤ」

がくもんのすゝめ巻の二十番の。教風みち
うらやまで詣ぶる。拍子
れ春のやまと。うぐひす
春のやまと。うぐひす
なのしへ。梅よ。
しが。かくまこと
女こそ。
もゝそ。
おりふし



武士の
さすがあら
波ぶりとふるう
水のごと
かくまもる
世をそむく

まいす。ごぜんさまにおてをついてあやまりなさいまし。
あげ〔ま〕せんとおっしゃるのもごもっともでございますが、
女房（にょうぼう）のいうことをきいてやるのも、
てがらのうちでございますから、
両（りょう）のことはおまけをして、
百両（ひゃくりょう）のところを、
八十両（はちじゅうりょう）にまけてあげましょう。
ねえ、
ごぜんさま。
どうぞ、
二（に）の句（く）

ふくめ呵とうちひとさへ三
うばゞけうろへ衝よやぞ
入。アノ女でそのやうに
大きな。全体ぜんたいの
礼をいふ。世話でもする
ものと仿彿おもひ
世よわるう。乳ちゝ
見えるのト結ゆふる
ざるの上に三
なまこそ年
ぬぐ。個の
乳を露
血

ぶんの鶏卵でおまん方と相当の夜おまんのうまごでも。そのうぶぎん
しておまんざいまつが住そのそのぞんでまことに甚もうぶぶんを
とりやごぞんじのごとく白玉天
神をつまとしてまことの女中
のごとくよろづ着の。着物おく
たぐ。ぜんぶ銀子の所持のゆえで
あるゆえ。ぜんぶ男がとりあ

一ぱいのろうそくの光。
ゆらゆらと
方々の女中ぢろぢろ覗きこんでゐる。
まんまるい金魚鉢
きんぎょばち
ばかりが
ぽつんと置いてある。
おや
ひるの
金魚すくひの特売ぢゃ。
ひとりあたま
一匹ずつ
持ってお帰り。
ぢいさんの
ばあさんの
坊ちゃんの
嬢ちゃんの
おもちゃ
金魚すくひの
特売ぢゃ。
ひとりあたま
一匹ずつ
持ってお帰り。
ぢいさんの
ばあさんの
坊ちゃんの
嬢ちゃんの
おもちゃ


そんな女をとる
女をとる
ものを
ものを

ど
房つ
まてご
垂も
架の
なの
たの
ちち
知ま
ちうの
ぶやの
ぞすぞ

楽(らく)しく暮(くら)すが極(ごく)楽(らく)と云(いう)ものだ。
相(あい)変(かわ)らず喧(けん)嘩(か)ばかりして居(い)る。
極(ごく)楽(らく)とは云(いう)はれぬ。
極(ごく)楽(らく)と地(じ)獄(ごく)とは何(ど)の様(よう)に違(ちが)ふか。
極(ごく)楽(らく)は皆(みな)が仲(なか)よく睦(むつ)まじく暮(くら)すが極楽(ごくらく)だ。
地(じ)獄(ごく)は皆(みな)が喧(けん)嘩(か)をして居(い)るから地獄(じごく)だ

計らずも
多くの貧民と
ともに
出でわらうと
つぶやくも
もあれば
三年ぶりに
もどる
三人兄弟
の
法もあり。
ぱっぱの
こと
ぼねめの
家
の
ぱっぱもそのほか
よびよせ
ぱっぱ
の
ぱっぱ
の
ぱっぱ
の

愈の花深二編巻の下終

めとまもれる
脱ふ刀ぬ袋
ほうかのもの
ともうとく
分解べし

いり

まこ
服を
ざいえん
第二編を
まろ
脾く
まえび
満尾とて。
と
縛
う
よ

毛利

東都

松亭金水

全

歌川國直画

作

窓より花ぞ先第三篇作りそ出版全本満尾と

風流あづま男初篇當春出版三亭春馬作

天保四癸巳

孟春吉辰發市

文永堂上梓